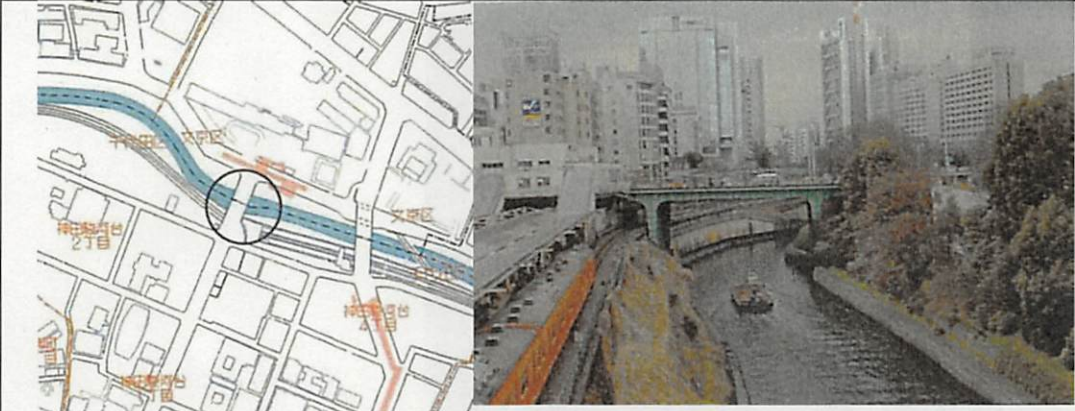
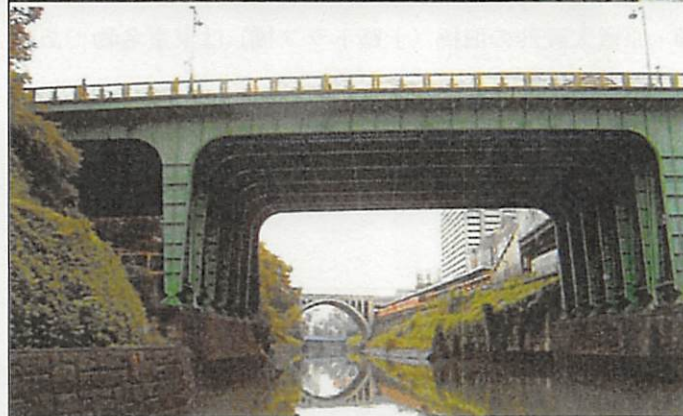


景観まちづくり重要物件台帳（橋梁）

番号	43	名称	御茶ノ水橋		
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	千代田区駿河台二丁目～文京区湯島一丁目（神田川）		
管理者	千代田区				
連絡先					
竣工	昭和 6 年（1931）5 月				
設計者				施工者	
構造形式	鋼橋・ラーメンゲルバー桁橋				
構造規模	橋長：80.0m 幅員：23.8m				
					
歴史・文化的特徴					
<p>神田川随一の渓谷地。東京府技師・原竜太設計の旧橋（上路トラス橋）は東京名物であった。</p> <p>御茶ノ水の名称は徳川家康が茶の水を求めた高林寺の逸話に基づいており、橋はその由来を名前にとどめている。</p> <p>震災復興橋梁である。</p>					
意匠・構造の特徴					
<p>珍しいラーメンゲルバー構造の鋼製桁橋。神田川を開削したことにより造り出された渓谷（通称「御茶ノ水谷」）と調和した外観を持つ。</p> <p>石積風の親柱が特徴的。手すりは独特のデザイン。橋桁の側面の色は緑色。</p>					
周辺景観との関係					
<p>橋上は神田川の渓谷や JR 中央線、護岸の緑、相対する聖橋をのぞむ絶好の眺望点である。</p> <p>周辺は地形が開け、周囲から渓谷に調和した橋梁の姿を見ることができる。聖橋からは橋梁の印象的な全景を見ることができる。御茶ノ水駅が渓谷の中ほどに設けられているため、駅ホームから橋梁を仰観することができる。電車からは、様々な角度から見え方が変化する橋梁を鑑賞出来る。橋詰めに御茶ノ水駅改札があり、歩行者の通行が多い橋である。文京区側から渡ると、賑やかな学生街へのゲートとしての演出も果たしている。水面からは幾重にも並ぶゲルバー桁を見上げることができ、構造的迫力を感じる。</p>					
備考					



A8.お茶の水橋

神田川に架かり、聖橋の上流約 200m の所にあります。神田駿河台二丁目と文京区湯島一丁目を結んでいます。橋下は都心では珍しい溪谷の面影を残しています。お茶の水の地名は、江戸時代に将軍家の茶の湯に用いる清水がこの溪谷近くから湧き出ていることによります。橋の名もその地名にちなんでつけられました。

明治 24 年 (1891) 10 月に初の日本人設計の鉄橋として完成しました。明治 34 年 (1901) に修復しましたが、関東大震災で損害を受けました。現在の橋は昭和 6 年 (1931) 5 月 10 日に架けられました。長さ 80m、幅 23.8m の鉄橋です。

(「千代田区の橋」 四番町歴史民俗資料館編 (平成 5 年 6 月) より引用)

お茶の水橋補修補強工事について

1. 橋の概要

橋長	80.0m
幅員	22.0m
構造	3径間鋼ラーメンゲルバー桁橋
竣工年月	昭和6年5月



昭和30年頃

2. 工事概要

工事場所

千代田区神田駿河台1番地先 ~ 文京区湯島1丁目5番地先

スケジュール

調査：平成26年度 設計：平成27年度 ~ 平成29年度

景観通知(東京都、文京区、千代田区)：平成29年度 工事：平成29年度 ~

施工時間(予定)

下部工 区施工部：8時~17時、20時~6時(台船作業時)など JR施工部：き電停止時

上部工 区施工部：20時~6時(道路部)、22時~6時(橋面部)など JR施工部：き電停止時

主要工種

①老朽化した橋の補修・補強

- ・塗装塗替え
- ・床版の補修
- ・伸縮装置取換え
- ・舗装打換え
- ・補強部材の設置

②架設当時の復元

- ・色彩(高欄・桁の塗装塗替え)
- ・形状(橋梁灯取換え)

③バリアフリー化

- ・下流側歩道の拡幅(1.5m)
- ・下流側歩道の手摺設置
- ・点字表示

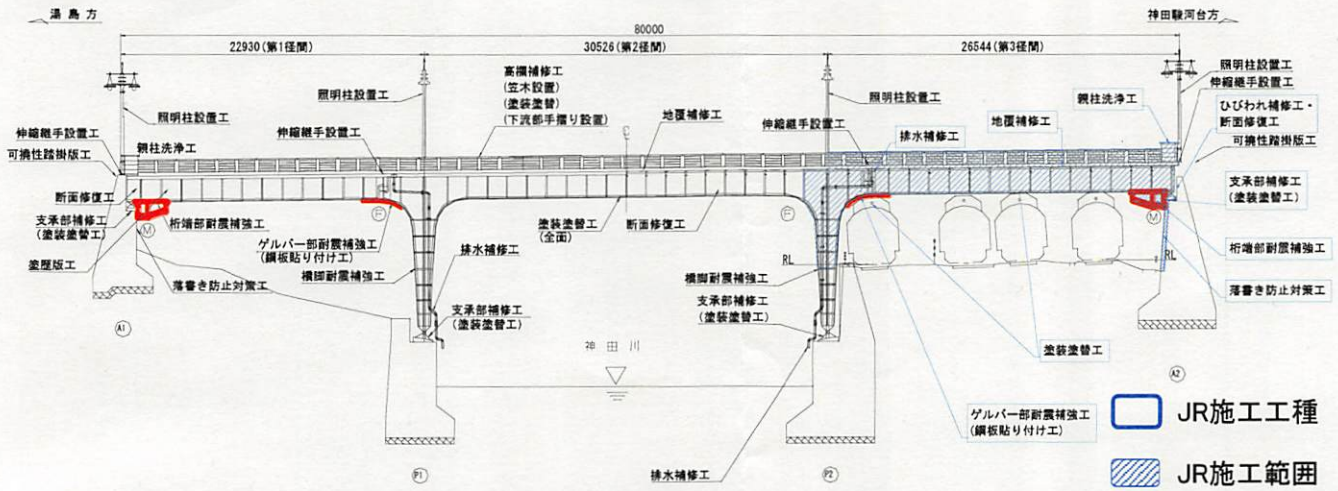
④環境配慮

- ・遮熱性舗装
- ・橋梁灯のLED化

色温度を下げる

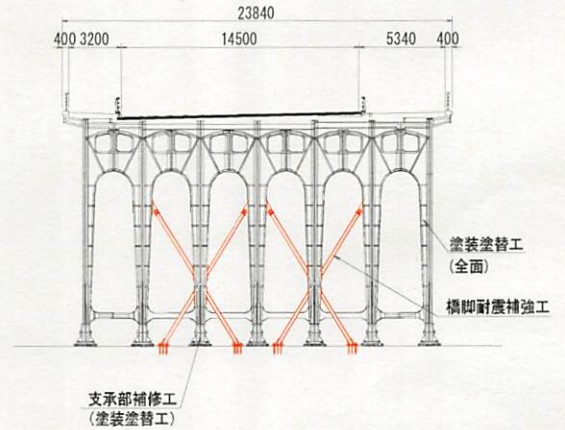
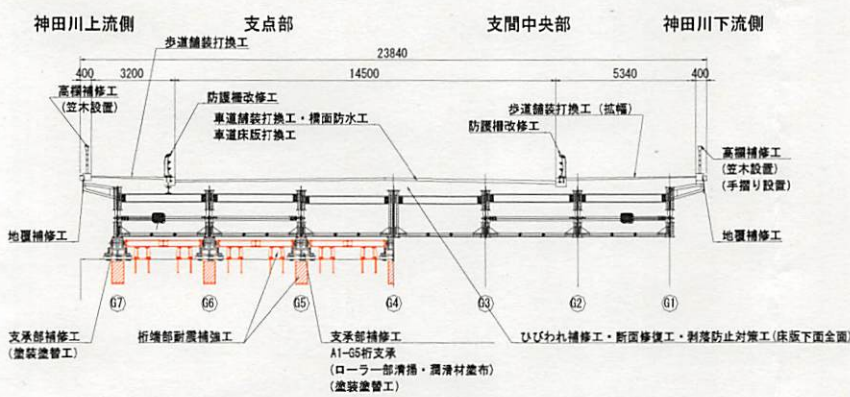
3. 計画図(予定)

側面図



標準断面図

P1、P2橋脚断面図



4. 整備イメージ

